

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成29年度病害虫防除情報第12号

ピーマンの病害虫対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

ヒラズハナアザミウマの発生が増加しています。 花への寄生数が多くなる前に防除を行いましょう。

- 1 作物名 冬春ピーマン
- 2 病害虫名 ヒラズハナアザミウマ
- 3 発生状況（経過）

3月中旬の巡回調査におけるヒラズハナアザミウマの発生面積率は66.6%（前年45.5%、平年40.9%）で平年より多、10花当たり虫数は16.8頭（前年5.5頭、平年8.5頭）で平年よりやや多、寄生花率は35.0%（前年18.9%、平年17.1%）で平年より多となっている（図1～2）。

向こう1ヶ月の気象予報では、前半は気温がかなり高くなる見込みとなっていることから、発生量は増加すると予想される（3月22日鹿児島気象台発表）。

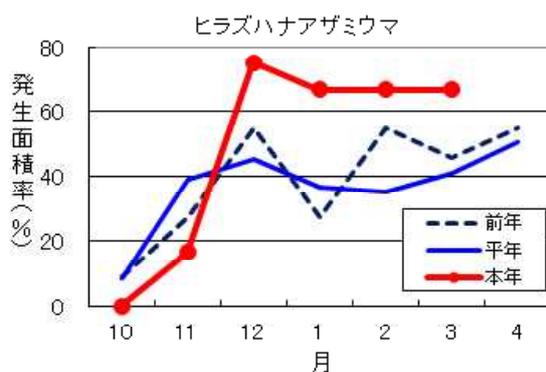


図1 発生面積率の推移

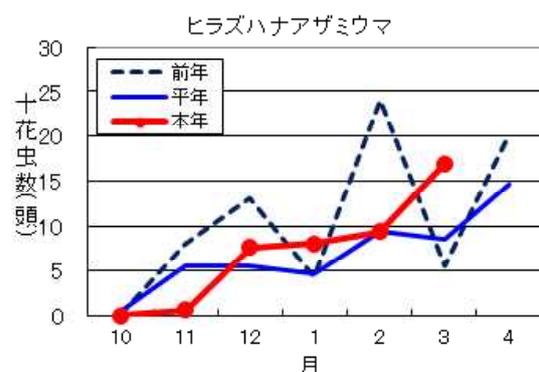


図2 10花当たり虫数の推移

4 防除上の注意

- 1) 多発すると果実への被害が見られる場合があります、特に、ミナミキイロアザミウマに対し天敵を導入しているほ場において、ヒラズハナアザミウマの発生が多い傾向にある。品質の低下を防ぐためにも低密度のうちに防除を行う。
- 2) 施設内では、卵・幼虫・蛹・成虫が混在し、卵と蛹には薬剤がかかりにくいので最少でも7日間隔で3回の連続防除を行い、多発しているときは更に連続した防除を徹底する。
- 3) ミナミキイロアザミウマとは薬剤に対する感受性が異なるので、薬剤の選択には注

意するとともに、天敵を導入している施設では、天敵に対する影響の少ない薬剤を選択する。

4) ヒラズハナアザミウマは、主に花内に生息することから、薬剤の花への付着性を高めるために、できるだけ展着剤を加用する。

5) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。

●その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センターなど関係機関に照会してください。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
（病害虫防除・肥料検査センター） 久野

TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp